

第7回 NTT空手道全国選手権大会

日時 平成14年11月3日(日) AM9:30~PM3:00

場所 NTT東海体育館

主催 NTT空手道連盟

主管 NTT東海空手道部

ご挨拶

写 真

NTT空手道連盟

会 長 立花 佑介

NTTグループの空手道愛好家の皆様のご賛同とご協力のもと、「第6回NTT空手道全国選手権大会」をNTT西日本研修センターにおいて開催できますことは、非常に意義深いことであり心よりお慶び申し上げます。

空手道は、格調のある武道としてその目指すべき高邁な精神は日本人が美徳としてきた礼儀、人情、友愛といった文化形成に大いに影響を与え、技の持つ魅力もさる事ながら、身体の鍛練と心（人格）の涵養に重きをおいており、健全な人間形成に大きく貢献しているところであります。

本大会においても、日頃から切磋琢磨した空手道の技と精神力を遺憾なく発揮しあうとともに、会員相互の交流を深めていただきたいと思います。

さて、NTT空手道連盟は平成7年7月に設立し、6年が経過しました。しかし、NTTグループ及び関連会社の中には、未だ連盟に加盟されていない空手道愛好家も多々あると思われませんが、ぜひ本連盟に加盟していただき、多くの参加のもと、さらに「NTT空手道連盟」が発展していくことを期待しやみません。そのためにも関係各位の格段なるご協力を賜りたいと考えております。

おわりに、この度の第6回NTT空手道全国選手権大会の開催に際しましてご支援、ご協力いただきました関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げますとともに、本大会が皆様のご健闘により実り多き大会となりますことを心より祈願してあいさついたします。

大会役員

大会会長	立花 佑介	(NTT 代表取締役副社長)
大会副会長	山口 晃生	(NTT西日本 神戸支店)
大会副会長	星野 肇夫	(NTTエレクトロニクス)
実行委員長	青島 忍	(NTT データ)
実行副委員長	小野 勇	(NTT ME 東京)
実行副委員長	藤田 拓	(NTTデータ)
実行委員	野口 悦男	(NTT 光エレクトロニクス研究所)
実行委員	石原 肇	(NTTコムウェア 東海会社)
実行委員	佐藤 秀美	(NTT西日本 大阪支店)
実行委員	原 元一	(NTT東日本 港支店)
実行委員	浅野 兼章	(NTTデータ)
実行委員	土田 淳一	(NTT東日本 仙台支店)
実行委員	山角 修一	(NTTインフラネット)
大会幹事	石原 肇	(NTTコムウェア 東海会社)
大会幹事	土田 肇	(NTTデータ)

審 判 団

大会監査役	中嶋 晋二	(神戸)
大会監査役	小野 勇	(東京)
大会監査役	藤田 拡	(東京・データ)
大会監査役	原 元一	(東京)
大会審判長	藤田 拡	(東京・データ)
副審判長	今野 正忠	(東京)
副審判長	奥野 隆久	(神戸)
審判員	山崎 俊正	(東京・データ)
審判員	浅谷 耕一	(本社通研)
審判員	高野 誠	(本社通研)
審判員	葉玉 寿弥	(本社通研)
審判員	山角 修一	(鹿児島)
審判員	石原 肇	(東海)
審判員	奥野 紀美子	(神戸)
審判員	青島 忍	(東海)
審判員	山崎 尊則	(東京)
審判員	森田 稔	(東京)
審判員	佐藤 秀美	(神戸)

大会次第

大会プログラム(1/2)

第一部 開会式

1. 選手入場
2. 開会の辞 大会実行委員長 青島 忍
3. 国旗遥拝
4. 大会会長挨拶 大会会長 立花佑介副社長
5. 来賓祝辞
6. 優勝杯の返還
7. 選手宣誓 神戸空手道部 安達俊雄
8. 審判注意 大会審判長 藤田 拓
9. 選手退場

第二部 試合

1. 形試合
 - 有級の部個人形 予選なし決勝
 - 40・50代の部個人形 予選なし決勝
 - 有段の部個人形 予選なし決勝

2. 組手試合
 - 有級の部組手 1回戦～準決勝 3位決定戦
 - 40.50代の部組手 1回戦～準決勝 3位決定戦
 - 有段の部組手 1回戦～準決勝 3位決定戦
 - 団体組手 1回戦～準決勝 3位決定戦

第三部 演武

演武

神戸空手道部
通研空手道部
東京空手道部
データ空手道部
東海空手道部

大会プログラム(2 / 2)

第四部 試合組手決勝

有級の部組手	決勝戦
40.50代の部組手	決勝戦
有段の部組手	決勝戦
団体組手	決勝戦

第五部 閉会式

1. 役員・選手整列

2. 表彰

有級の部個人形	優勝・準優勝・3位
40・50代の部個人形	優勝・準優勝・3位・敢闘賞
有段の部個人形	優勝・準優勝・3位・敢闘賞
有級の部組手	優勝・準優勝・3位・敢闘賞
40.50代の部組手	優勝・準優勝・3位・敢闘賞
有段の部組手	優勝・準優勝・3位・敢闘賞
団体組手	優勝・準優勝・3位

3. 国旗遙拝

4. 大会講評	大会監査役	小野 勇
5. 閉会の辞	実行委員	山崎 俊正

個人形試合

有級の部

No.	氏名(所属)	得点(予選)	得点(決勝)
1	斎藤 正 (通研)		
2	徐 光哲 (データ)		
3	大西 正信 (神戸)		
4	池辺 亮 (データ)		

個人形試合

シニア(40・50代)の部

No.	氏名(所属)	得点(予選)	得点(決勝)
1	山崎 俊正 (データ)		
2	知花 賢宣 (沖縄)		
3	芥子 寿和 (神戸)		
4	山角 修一 (鹿児島)		
5	山口 澄 (東京)		
6	石原 肇 (東海)		
7	奥野紀美子 (神戸)		
8	山崎 俊正 (データ)		
9	原 元一 (東京)		
10	篠原 一夫 (四国・徳島)		
11	服部 初男 (東海)		

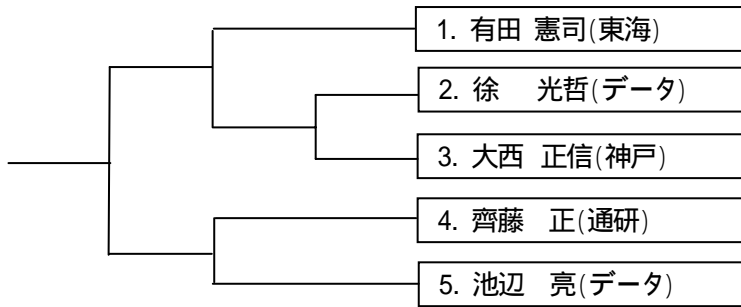
個人形試合

有段の部

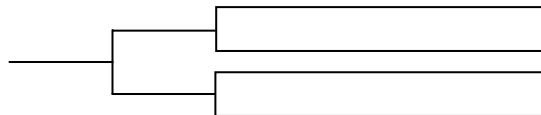
No.	氏名(所属)	得点(予選)	得点(決勝)
1	望月 雅人 (データ)		
2	田中 勝志 (東京)		
3	長崎 浩一 (神戸)		
4	丹野 忠伸 (通研)		
5	金子 東雲 (データ)		
6	奥野 隆久 (神戸)		
7	佐藤 慎一 (データ)		
8	古川 一暁 (通研)		

個人組手試合

有級の部

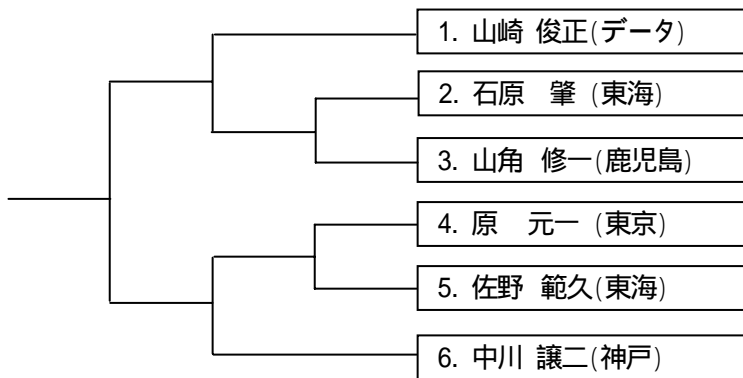


3位決定戦



個人組手試合

50代の部

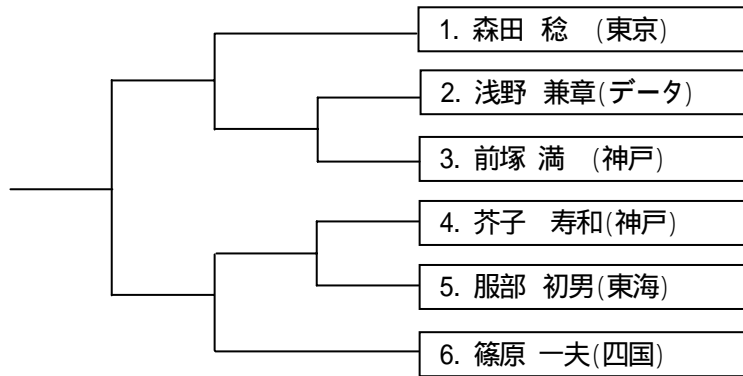


3位決定戦



個人組手試合

40代の部

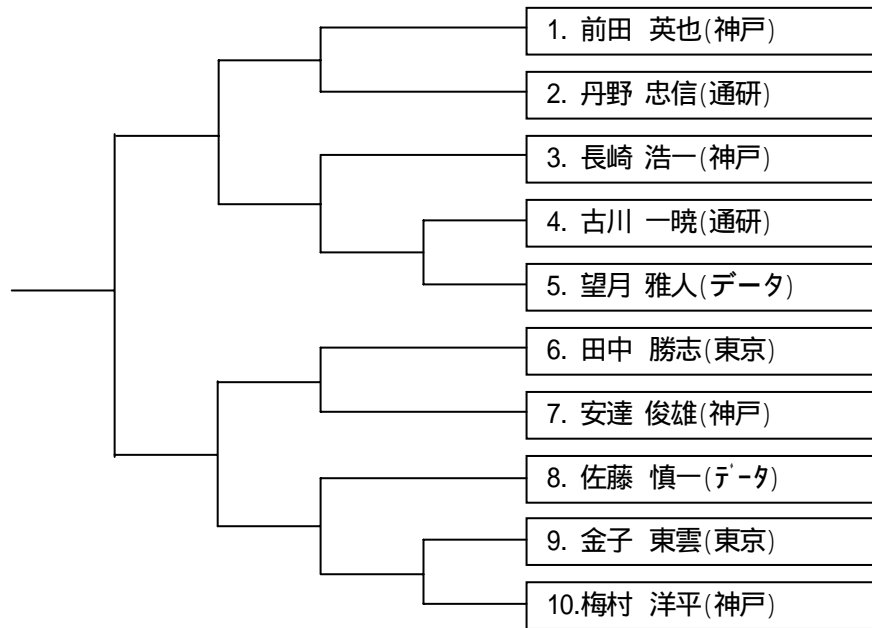


3位決定戦

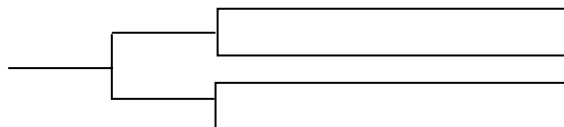


個人組手試合

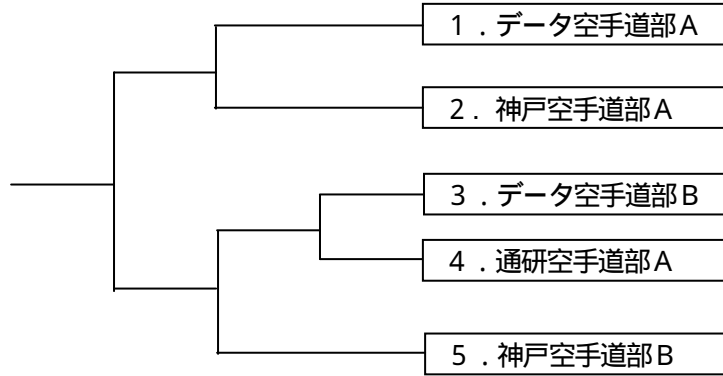
有段の部



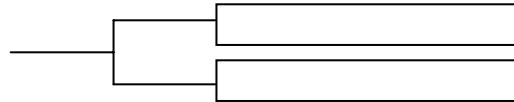
3位決定戦



団体組手試合



3位決定戦



データ空手道部A		
監督	弐段	佐藤 慎一
大将	弐段	佐藤 慎一
中堅	弐段	望月 雅人
先鋒		除 光哲
補欠		
補欠		

データ空手道部B		
監督	弐段	金子 東雲
大将	二級	池部 亮
中堅	弐段	金子 東雲
先鋒	初段	田中 勝志
補欠		
補欠		

神戸空手道部A		
監督	四段	前田 英也
大将	四段	前田 英也
中堅	四段	梅村 洋平
先鋒	四段	長崎 浩二
補欠		
補欠		

神戸空手道部B		
監督	四段	中川 譲二
大将	四段	芥子 寿和
中堅	四段	安達 俊雄
先鋒	四段	中川 譲二
補欠		
補欠		

通研空手道部A		
監督	参段	高野 誠
大将	弐段	丹野 忠伸
中堅	弐段	古川一 暁
先鋒	二級	齊藤 正
補欠		
補欠		

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(1 / 4)

第一回	平成8年度 11月3日 NTT中央研修センタ	主幹： 本社通研空手道部 東京空手道部	優秀選手(敢闘賞)
個人組手	優勝	安達 俊雄(関西)	
	準優勝	前田 英也(関西)	
	3位	佐藤 慎一(東京)	
	4位	長崎 浩一(関西)	
個人形	優勝	奥野 紀美子(関西)	
	準優勝	奥野 隆久(関西)	
	3位	宮脇 光志(東京)	
	4位	大西 学(東京)	佐藤 慎一(東京)
団体組手	優勝	東京空手道部	
	準優勝	関西空手道部	
	3位	本社通研B	

第2回	平成9年度 11月2日 NTT鈴鹿研修センタ	主幹： 関西空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	安達 俊雄(関西)	
	準優勝	佐藤 慎一(東京)	
	3位	森本 博愛(東京)	
	4位	長崎 浩一(関西)	
段外組手	優勝	海老 裕輔(東海)	
	準優勝	村田 英樹(関西)	
	3位	樋口 嘉成(関西)	
	4位	矢野 政彦(東海)	
個人形	優勝	森本 博愛(東京)	
	準優勝	宮脇 光志(東京)	
	3位	服部 初男(東海)	
	4位	奥野 隆久(関西)	奥野 紀美子(関西)
団体組手	優勝	東京空手道部	
	準優勝	関西空手道部A	
	3位	本社通研	

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(2 / 4)

第3回	平成10年度 11月1日 NTT中央研修センタ	主幹: 本社通研空手道部 東京空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	前田 英也(関西)	
	準優勝	中川 譲二(関西)	
	3位	長崎 浩一(関西)	
	4位	高野 誠(通研)	
段外組手	優勝	海老 祐輔(東海)	
	準優勝	小川 智章(通研)	
	3位	加藤 高明(東海)	
	4位	窪田 紀彦(東京)	
個人形	優勝	森本 博愛(データ)	
	準優勝	佐藤 慎一(データ)	
	3位	奥野 隆久(関西)	
	4位	奥野 紀美子(関西)	大西 学 宮脇 光志(東京) 土田 淳一(東北) 山角 修一(鹿児島)
団体組手	優勝	NTTデータ空手道部	
	準優勝	通研空手道部A	
	3位	東京空手道部	
	4位	関西空手道部A	

第4回	平成11年度 10月31日 NTT東海体育館	主幹:東海空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	望月 雅人(データ)	
	準優勝	前田 英也(神戸)	
	3位	森本 博愛(データ)	
	敢闘賞	山角 修一(鹿児島)	
段外組手	優勝	森田 賢二(データ)	
	準優勝	綾田 直輝(通研)	
	3位	加藤 高明(東海)	
個人形	優勝	宮脇 光志(東京)	
	準優勝	森本 博愛(データ)	
	3位	佐藤 慎一(データ)	
	敢闘賞	原 元一(東京)	
団体組手	優勝	NTTデータ空手道部	
	準優勝	九州空手道部	
	3位	神戸空手道部A	

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(3 / 4)

第5回	平成12年度 10月29日 NTT東日本研修センタ	主幹: NTT 東京空手道部 NTT データ・通研空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	森本 博愛(データ)	
	準優勝	前田 英也(神戸)	
	3位	佐藤 慎一(データ)	
	4位	大西 学(東京)	
段外組手	優勝	海老 祐輔(東海)	
	準優勝	酒井 統史(通研)	
	3位	森田 賢二(データ)	
	4位	矢原 大志(通研)	
個人形 (有段)	優勝	伏見 孝行(東京)	土田 淳一(東京)
	準優勝	佐藤 慎一(データ)	大西 学(東京)
	3位	森本 博愛(データ)	葉玉 寿弥(通研)
	4位	奥野 隆久(神戸)	ヤコブ・ロイター(通研)
個人形 (有級)	優勝	齊藤 正(通研)	西川 正(通研)
	準優勝	森田 賢二(データ)	塩野谷 寧(通)
	3位	池辺 亮(データ)	
	4位	徐 光哲(データ)	
シニア組手 (40代)	優勝	中川 讓二(神戸)	
	準優勝	服部 初男(東海)	
	3位	森田 稔(東京)	
	敢闘賞		
シニア組手 (50代)	優勝	山角 修一(鹿児島)	
	準優勝	佐野 範久(東海)	
	3位	石原 肇(東海)	
シニア形 (40代)	優勝	奥野紀美子(神戸)	田中 康雄(東京)
	準優勝	服部 初男(東海)	加藤 高明(東海)
	3位	森田 稔(東海)	
	敢闘賞	浅野 兼賞(データ)	
シニア形 (50代)	優勝	原 元一(東京)	山口 澄(東京)
	準優勝	永坂 和春(東京)	長田 薫(東京)
	3位	山角 修一(鹿児島)	知花 賢宣(沖縄)
	敢闘賞	石原 肇(東海)	
組手団体	優勝	通研空手道部 B	
	準優勝	通研空手道部 A	
	3位	神戸空手道部 B	

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(4 / 4)

第6回	平成13年度 11月4日 NTT西日本研修センタ	主幹: NTT 神戸空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	安達 俊雄(神戸)	
	準優勝	長崎 浩一(神戸)	
	3位	佐藤 慎一(データ)	
	4位	前田 英也(神戸)	
段外組手	優勝	海老 祐輔 関西	
	準優勝	渡辺 亮(データ)	
	3位	斎藤 正(通研)	
	4位	有田 憲司(東海)	
個人形 (有段)	優勝	奥野 隆久(神戸)	
	準優勝	佐藤 慎一(データ)	
	3位	長崎 浩一(神戸)	
	4位	望月 雅人(データ)	
個人形 (有級)	優勝	齊藤 正(通研)	
	準優勝	海老 祐輔 関西	
	3位		
	4位		
シニア組手 (40代)	優勝	芥子 寿和(神戸)	
	準優勝	上田 純一(熊本)	
	3位	前塚 満(神戸)	
	4位	服部 初男(東海)	
シニア組手 (50代)	優勝	山角 修一 鹿児島	
	準優勝	中川 譲二(神戸)	
	3位	山崎 俊正(データ)	
	4位	佐野 範久(東海)	
シニア形 (40.50代)	優勝	奥野紀美子(神戸)	
	準優勝	原 元一(東京)	
	3位	山角 修一 鹿児島	
	敢闘賞	服部 初男(東海)	
組手団体	優勝	データ空手道部 A	
	準優勝	神戸空手道部 B	
	3位	通研空手道部 A	
	敢闘賞	神戸空手道部 A	

第7回 NTT 空手道連盟全国選手権大会実施規則

第一条(目的)

本規則は、第7回NTT空手道連盟全国選手権大会(以下「大会」という。)を実施するにあたり、その準拠となる事項を定め円滑な大会運営に寄与する。

第二条(大会運営)

大会の運営にあたっては、大会実行委員長がこれを統括する。この際、大会実行委員長は、大会運営に必要な事項を行使するとともに、これと同等の責任を負う。

また、大会の運営を円滑に進めるために以下の係をおく。

大会総務	大会設営	記録
受付、接待	選手	時計
進行、放送	救護	掲示
式典、表彰	大会ドクター	進行

第三条(審判)

- (1)大会審判長は審判団を構成する。
- (2)主審は公認審判資格、又は会派団体の資格を有するもの。
- (3)審判服装は長袖ワイシャツ、ネクタイ、各地区・団体プレザー、ズボンはグレー黒のクツ、又は素足とする。(服装は審判長が指定する。)
- (4)団体組手防具付きの主審は道衣と袴、副審はワイシャツでもよい。
- (5)審判団の構成、審判規則については、理事会でこれを決定する。

第四条(大会監査)

各地区の師範が監査役をつとめる。理事会で要請する。

第五条(競技規定)

- (1)防具付きは防具試合規定、審判規定
- (2)全日本空手道連盟試合規定、審判規定
上記規定に則り行いが、本連盟規定を準用する。

第六条(組手試合の方式ならびに時間)

個人戦(全空連方式)

- (1)勝負...3本勝負。(6ポイント)但し、シニアの部は2本勝負とする。
- (2)時間...2分間(フルタイム)但し、シニアの部は2分流しとする。
- (3)トーナメント方式により行う。(3位決定戦まで実施する)
- (4)安全具、メンホー、拳サポータ、金カップを着用。
- (5)マウスピース、胴プロは自由使用。
- (6)審判の人数は主審1、副審4とし、副審は4コーナーに配置する。

団体戦(防具付)

- (1)勝負...1本勝負。(2ポイント)

- (2) 時間...2分間(フルタイム)
- (3) 1チーム3名で構成する。
- (4) トーナメント方式により行う。(3位決定戦まで実施する)
- (5) 勝者とポイントが同数の場合、代表決定戦を行う。
- (6) 負傷等で交代した場合、その選手は出場できない。
- (7) 監督と選手をかねることができる。
- (8) メンバー表はその都度提出する。提出後の変更は不可。
- (9) 審判の人数は主審1、副審4とすし、副審は4コーナに配置する。

第七条(型試合の方法と形の指定)

- (1) 点数で得点表示
- (2) 基準点は6～8点。(試技を行い点数の統一を計る、演武順最後の選手により試技)
- (3) 自由形でよい。選で上位8名を選出し、決勝戦を行う。(参加人数により変更あり)
- (4) 同点の場合順位決定戦。紅白旗で表示、形は同じ形でよい。
- (5) 審判の人数は主審1、副審4とし、副審は4コーナに配置する。
- (6) 決勝戦の演武順はゼッケン順とする。

第八条(団体組手、防具の審判規定)

競技における攻撃の禁止事項を下記のように定め、違反者は(反則負け)とする。
 但し、軽懲の違反者に対しては(反則注意)の警告を申し付ける。

- (1) 攻撃の禁止事項
 - ・股間部への攻撃
 - ・継続的な組み合い
 - ・関節技
 - ・強引な投げ技
 - ・体当たり技
 - ・背面よりの攻撃
 - ・気合以外の人格を無視するような言葉
 - ・競技に関連しない時間の浪費(技を取った後の時間かせぎ等)
- (2) 場外の基準は競技者が競技場の外のラインを出た場合とする。但し、不測の事態により、体位が競技場の外側の線を出たと認定される場合はこれを除く。
 (副審は場外の宣言を旗をまわして行わなければならない)
- (3) 失格の基準は次のごとく定める。
 - ・競技の継続を拒否、または放棄した場合。
 - ・審判の判定を不服とし、審判員に直接抗議した場合。
 - ・競技中、主審の指示に従わぬ場合。
 - ・指定時間内に入場していない場合。

(4)副審の任務

- ・組手競技においては、主審の判定宣言に従い紅白の旗を用いて競技の判定を表示する。
- ・組手競技中、的確に攻撃技を確認した場合、旗を用いてその旨を表示する。
- ・組手競技者の負傷、場外、転倒、死角位置、及び競技の継続が不可能と認めた場合、旗及び、呼び笛を用いて表示する。
- ・主審の招集に従い、自己の意見を述べる。

第九条(選手の呼び出し)

選手係が3回呼び出しても選手が不在の場合は、原則として相手方の不戦勝とする。

第十条(事故時の責任)

- (1)大会実行委員会では試合等における事故の場合応急処置を行う。
- (2)選手は保険証を持参、大会全体で傷害保険に加入をする。
- (3)救急病院の把握(住所、電話番号、診療時間、診療科目等)

第十一条(ゼッケン)

- (1)個人戦のゼッケンは各地区で準備する。(組手:黒,型:赤で表示)
- (2)組手 = 黒
- (3)形 = 赤で表示
- (4)寸法は自由(縦26・横18cm位)

第十二条(その他の確認事項)

- (1)全空連方式の場合、道衣の袖、裾はまくらない、女子のヘアピン等は外す。
- (2)テーピングは事前に主審の許可を得る。攻撃強化や競技を中断させるようなものは不可。
- (3)色は白、肌色、負傷及び再発防止のための包帯、サポータは使用可。
- (4)道衣は白無地一色とし、左胸に会派、所属のマークは着用可。
- (5)メガネは使用禁止、コンタクトは各自の責任で使用可。
- (6)反則技は、理事会、審判団会議で再確認を行う。
- (7)監督、審判、選手を兼ねることができる。
- (8)組手個人戦、団体戦で判定が分かれた場合、副審を呼び協議することができる。
- (9)審判団は組手の3位決定戦、準決勝、決勝、形の決勝で再編成する。
- (10)自地区選手の主審は極力外れる。

第十三条(競技種目)

- (1)組手個人戦(段)(全空連方式)
- (2)組手個人戦(級)(全空連方式)
- (3)形(段)(全空連方式)
- (4)形(級)(全空連方式)*H10年、第三回大会より種目追加
- (5)団体組手(防具付規定)*H10年、第三回大会より1チーム3名とする。

第十四条(その他)

- (1)この規定は、平成8年11月4日に制定
- (2)平成9年9月25日改定(安全具、金カップ義務に、形、予選の実施)
- (3)平成10年10月1日改定(団体戦5名から3名、段外の形を種目に)
- (4)第三条の(4)項、審判員の服装の統一は検討事項に。(2回大会時)

NTT空手道連盟規約

平成7年7月27日 制定
平成7年11月5日 改訂
平成9年11月2日 改定
平成12年9月19日 改訂

第1章 総則

(名称)

第1条 本連盟は「NTT空手道連盟」と称する。

(目的)

第2条 本連盟は空手道の研さんにつとめ、人格の向上及び身体の鍛錬を行い、もって良識ある社員の育成を図ることを目的とする。

(活動)

第3条 本連盟は第2条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1)空手道大会(以下「全国大会」という)の開催。
- (2)組織の空手道愛好者の活動状況の把握及び指導。
- (3)その他、目的達成に必要な活動。

第2章 組織

(構成)

第4条 本連盟はNTT社員(元社員を含む)及び関連会社社員の空手道愛好者をもって構成する。

(組織)

第5条 本連盟は次の組織とする。

NTT空手道連盟

|

各職場等における組織。(地域組織(各職場等)において適宜組織する)

第3章

(役員)

第6条 本連盟は次の役員をおく。

- (1)会長 1名
- (2)副会長 若干名
- (3)顧問 若干名
- (4)常任理事 若干名
- (5)理事 若干名
- (6)幹事 若干名
- (7)事務局長 1名
- (8)会計監査 2名

(役員の仕事)

第7条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は本連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその任務を代行する。
- (3) 顧問は本連盟の重要事項に関し、会長の諮問に応ずる。
- (4) 常任理事は本連盟の運営に関し、指導助言を行うと共に理事会を運営する。
- (5) 理事は各組織の長として地域組織を代表し、会務を統括し、理事会に出席し議決権を行使する。
- (6) 幹事は理事会等の開催にあたりその設定を行う。
- (7) 事務局長は会長、副会長及び常任理事を補佐し、幹事会ならびに事務局を運営する。
- (8) 会計監査は本連盟の会計を監査する。

(役員を選出)

第8条 役員は推挙及び選出は次による。

- (1) 会長及び副会長は理事会で推挙する。
- (2) 顧問は理事会の推挙により会長が委嘱する。
- (3) 常任理事は理事会で推挙する。
- (4) 理事は各組織で推挙する。
- (5) 幹事は地域組織の選出によるほか、理事会において若干名の幹事を選出する。
- (6) 事務局長は幹事会で選出する。
- (7) 会計監査は全国大会開催地から選出し、会長が委嘱する。

(役員任期)

第9条 役員任期は1年とする。但し、再任は妨げない。

第4章 機関

(会議)

第10条 本連盟は次の会議を開催する。

(1) 理事会 理事会は本連盟の最高意志決定機関とし、会長が必要に応じて召集する。その他必要に応じて開催することができる。但し、やむを得ない場合は、電話、電子メール等で協議決定することができる。

(2) 幹事会 幹事会は事務局長が必要に応じて召集する。その他必要に応じて開催することができる。但し、やむを得ない場合は、電話、電子メール等で協議決定することができる。

(審議事項)

第11条

1 理事会は次の事項について審議し、出席者の過半数をもって議決する。

- (1)本連盟運営上の重要事項。
- (2)前年度の活動報告及び会計報告。
- (3)新年度の活動方針。
- (4)規約の制改訂。
- (5)役員の推挙及び選出。
- (6)その他。

2 幹事会は次の事項について審議し、出席者の過半数をもって議決する。

- (1)理事会に付議する事項。
- (2)全国大会の運営概要。(但し「大会実施要領」に定めのあるものを除く)
- (3)その他本連盟の運営に関し、本規約の定めのない事項。

(事務局)

第12条

- 1 本連盟の運営を行うため、NTT本社または関連会社事業所に事務局をおく。
- 2 事務局の運営は、事務局長があたる。
- 3 事務局には必要な事務担当者をおく。

第5章 会計

(経費)

第13条 本連盟の経費は、理事会において決定する。

(会費)

第14条 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円とする。

(会計年度)

第15条 本連盟の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(基金)

第16条 全国大会運営の一助とするため「基金」を別途設置する。

第6章 各組織(空手道部)等

(各空手道部の組織、運営)

第17条 各空手道部は、本連盟の主旨に基づく組織を確立し、適正な運営を行い、活発な活動を展開する。

第7章 全国大会

(全国大会の開催)

第18条 全国大会は次により年1回開催する。

- (1)全国大会の開催は、各地域組織持ち回りとし、主幹地域組織は前年度理事会において決定する。
- (2)全国大会の運営概要については、「全国大会実施要領」による。
- (3)運営に関する細部事項については、実情に即した形で行う。

付則

本規約は平成7年7月27日から施行する。

参考

改訂履歴

[1]平成7年11月5日

(1)第14条

旧 会費

新 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円とする。

[2]平成9年11月2日

(1)第6条

旧 (5)理事 12名

(6)幹事 1名(当面)

新 (5)理事 若干名

(6)幹事 若干名

[3]平成12年9月19日

(4)第10条

旧(1)理事会 理事会は本連盟の最高意志決定機関とし、会長が必要に応じて召集する。その他必要に応じて開催することができる。但し、やむを得ない場合は、電話で協議決定することができる。

新(1)理事会 理事会は本連盟の最高意志決定機関とし、会長が必要に応じて召集する。その他必要に応じて開催することができる。但し、やむを得ない場合は、電話、電子メール等で協議決定することができる。

(2)幹事会 幹事会は事務局長が必要に応じて召集する。その他必要に応じて開催することができる。但し、やむを得ない場合は、電話、電子メール等で協議決定することができる。

(5)第12条

旧 1 本連盟の運営を行うため、NTT本社または事業本部に事務局をおく。

新 1 本連盟の運営を行うため、NTT本社または関連会社事業所に事務局をおく。

NTT空手道連盟役員

役職	所属	氏名
会長	NTT代表取締役副社長	立花 佑介
副会長	NTT西日本 神戸支店	山口 晃生
副会長	NTTエレクトロニクス	星野 肇夫
常任理事	NTT ME 関西	中嶋 晋二
常任理事	NTT ME 東京	小野 勇
常任理事	NTTデータ	山崎 俊正
理事	NTT 光エレクトロニクス研究所	野口 悦男
理事	NTTコムウェア東海支社	石原 肇
理事	NTT西日本 大阪支店	佐藤 秀美
理事	NTT東日本 港支店	原 元一
理事	NTTデータ	浅野 兼章
理事	NTT東日本 法人営業本部	土田 淳一
理事	NTTインフラネット 九州支店	山角 修一
事務局長	東京NTTデータ通信システムズ	藤田 拓
幹事	情報流通プラットフォーム研究所	田中 勝志
幹事	NTT東日本企画部グループ企業部門	葉玉 寿弥

NTT空手道連盟顧問

前役職	所属	氏名
初代会長	NTT特別顧問	宮脇 陞
二代目会長	代表取締役社長 NTT西日本	浅田 和男
副会長	日本シスコム 関西支店	小西 祥夫
副会長	工学院大学	浅谷 耕一
副会長	広島工業 関西支店	大谷 好明
常任理事	NTTドコモサービス 関西支社	後山 昭雄
常任理事	NTTドコモ 北海道お客様サービス部	菅江 武
理事	NTT移動通信網 研究所	野島 俊雄

NTT空手道連盟顧問

前役職	所属	氏名
初代会長	NTT特別顧問	宮脇 陸
二代目会長	代表取締役社長 NTT西日本	浅田 和男
副会長	日本シスコム 関西支店	小西 祥夫
副会長	工学院大学	浅谷 耕一
副会長	広島工業 関西支店	大谷 好明
常任理事	NTTドコモサービス 関西支社	後山 昭雄
常任理事	NTTドコモ 北海道お客様サービス部	菅江 武
理事	NTT移動通信網 研究所	野島 俊雄